

本委員会におけるこれまでの審議の状況について

スポーツ環境及び高校入試制度の在り方検証委員会

本委員会では、スポーツ等で実績のある中学生の県外進学が増加している現状を踏まえ、その要因分析と今後の対策について審議を行ってきた。

特に、令和5年度より導入された現行の入試制度との関連性と、スポーツ環境の充実に向けた方策等について、アンケートの結果を踏まえつつ、以下の3つの論点に沿って意見交換を行った。

<論点1>アンケート調査の結果を踏まえた本県公立高校の入試制度の在り方

① 入試制度と県外進学の関連性について

現行の入試制度と、県外進学との関連性を検証するため、秋田県の中学校を卒業して県内外の高校に進学した高校1~3年生及びその保護者に対し、ウェブでのアンケート調査を実施した。

この結果、県外進学者が高校選択において最も重視したのは、指導者や施設・設備、競技実績を含めた競技環境や、特待制度等の経済的支援であり、本県の公立高校の入試制度（3月実施・5教科）が進学先の決定に影響したとする回答は少数にとどまった。

県外進学者の保護者においても、この傾向はほぼ同様であるが、入試制度が進学先の決定に影響したと回答した割合は、生徒と比較するとやや大きくなっている。

また、生徒及び保護者から、「受検機会が少ない」、「他県と比べて選択肢が狭い」という声が一定程度寄せられた。

これらの結果も踏まえると、委員からは、公立高校の入試制度と県外進学との関連性は、それほど高くないのではないかと考えられる一方で、生徒の多様性を考えれば、制度にも多様性が求められることや、現行制度ではチャレンジする機会が限られているため、生徒の選択肢を広げていくという観点から、更なる改善が求められるのではないかとの意見が見られた。

② 入試教科数・時期について

• **教科数について：**教科数については、「基礎学力を問う形で十分である」という意見と、「多様な力を見るべき」との意見の双方が見られた。その中で、中学校までは義務教育であり、スポーツをするか否かに関わらず、全ての生徒が中学校までの学習内容を身につけたうえで高校に進学するということが前提であるとの意見も示された。

入試教科数が県内高校を選択するうえでの大きな負担となっているという意見は見られず、教科数を変更すべきとまでは言えないのではないか。

• **時期について：**現行制度は、特色選抜・一般選抜とともに3月に同日程で行われているが、合格発表から入学までの準備期間が短く、タイトであることや、不合格の場合に次の進路に備えるための時間的余裕がないという課題が指摘された。また、実質的に1回しかチャンスがなく、生徒及び保護者の心理的負担が大きくなっているとの意見も複数挙げられた。東北6県においては、おお

よそ同日程での試験実施となっていることも踏まえつつ、早期実施の別日程を設けることも含め、入試時期の前倒しについて検討することは必要ではないか。

③ 留意すべき点

入試制度は、全ての中学生を対象としたものであることに留意し、頻繁に変更を行うべきではないとの意見も見られた。また、公平性や透明性を十分に担保し、変更を行うのであれば適切な準備期間を設けるべきとの意見もあった。

加えて、特色選抜・一般選抜ともに3月に同日程で行う現行制度は、中学校及び高校の教員の入試業務負担を軽減し、働き方改革に一定の効果があったとの評価もあった。入試時期の改善に向けた検討を行うのであれば、このことも考慮に入れつつ、ウェブ出願や採点業務のデジタル化等を推進し、教員の負担を抑制しつつ、生徒にとって不利益とならない日程設定等を図るべきであるとの意見が挙げられた。

<論点2>県内公立高校における生徒募集の柔軟化

① 募集活動の早期化と柔軟化について

県外私立高校は中学1・2年生の段階から接触を開始し、指導者や施設・設備等の競技環境や、経済的支援の充実といった魅力を打ち出すことにより、体系的かつ競争力の高い募集活動を展開している。

これに対し、県内公立高校の募集活動は、募集要項が確定した9月中旬以降に開始することになっており、この時期には一定の妥当性がみられるとの意見もあったが、この時期は極めて遅く、すでに生徒の進路が決まっているケースが多いことから、生徒に多様な選択肢を提示する観点から、募集活動の開始時期については前倒しを検討するべきではないかとの意見が多く挙げられた。

② 広報戦略の強化・改善について

県外私立高校はSNSや動画等を活用し、学校の魅力や育成方針を積極的に発信しており、その魅力が伝わるよう、様々な工夫が凝らされているとの指摘があった。また、豊富な情報に基づき、生徒及び保護者に熱意を持った働きかけを行っていることが、県外進学の要因の一つとなっているのではないかとの意見が見られた。

このことから、県内公立高校の募集活動の開始時期の前倒しを検討するだけでなく、生徒及び保護者への働きかけの方法の見直しや、デジタルツールを活用した魅力発信等の手法についても検討を進めていくべきではないか。

③ 留意すべき点

募集活動の前倒しに伴い、高校間の競争が過熱し、生徒たちが落ち着かない状況になることが懸念されるとの意見が示された。また、中学生の進路選択が早期に固定化されるのではないかという指摘もあった。

<論点3>県内の高校におけるスポーツ環境の充実に向けた方策

① 魅力ある競技環境の整備について

県外進学の最大の要因は、より高いレベルでの競技継続を望む生徒のニーズに対して、県内の環境が十分に応えられていないことにあるとの意見が多く挙げられた。<論点1>で示したとおり、県外進学者が高校選択において最も重視したのは、指導者や施設・設備、競技実績を含めた競技環境や経済的支援であったところ、「指導者(人)」「施設・設備(物)」「経済的支援(金)」の3要素を総合的に充実させることが不可欠であると考えられる。

② 競技環境の整備に向けた具体的方策について

- **指導体制の充実:**専門的な指導力を持つ教員の配置や、トップアスリート経験者の採用、教員の異動による指導体制の不安定さを解消するための部活動指導員や外部コーチの活用を進めることにより、指導体制の強化を図ることが必要であるとの意見が多く示された。
- **施設・設備の整備:**本県の気候特性（夏の猛暑・冬の積雪）に対応するため、体育館への空調設備導入や、冬季屋内練習場の確保が急務であることや、通学困難な生徒を受け入れるための寮や下宿、交通手段の確保も重要であるとの意見が多く見られた。また、学校の施設に限らず、県や市町村が所有する公立体育館の活用等も検討すべきではないかとの意見があった。
- **拠点の形成:**限られた資源を効率的に活用するため、「スポーツ拠点校」の指定やスポーツ科等の専門学科の設置など、資源の集約化を図り、メリハリをつけた整備を進めるべきではないかとの意見が見られた。

③ 留意すべき点

各競技団体や協会と行政等とのコミュニケーションの機会を充実させるべきであるとの意見があったことも踏まえつつ、上記②に示した具体的方策の実現に向けた優先順位と適切な役割分担の検討を進める必要があるのではないか。

高等学校進学（全日制課程）に関するアンケート調査　自由記述について

スポーツ環境及び高校入試制度の在り方検証委員会

＜自由記述＞

部活動やカリキュラムの充実など、秋田県内の高校の魅力を向上させるために必要だと思うことがあれば、具体的に入力してください。

＜生徒編＞

○県外高校（公立・私立）

・指導者や施設・設備等の環境の充実

信頼できる指導者や外部コーチの導入・充実や、寮やトレーニングルームなどの設備整備が不可欠。生徒のための環境を整えることが大切。

・寮や経済的支援の整備・充実

生徒が快適に3年間取り組める寮を建てることや、奨学金制度等の充実が必要。

・学校の特色化と情報発信の強化

他の学校にはない魅力を伸ばす学校が少ない。中学生に選ばれるよう、学校ならではの特色を作り、SNS・動画などを通して積極的に発信すべき。また、秋田県にしかない学科や、スポーツ科のある公立高校やスポーツに特化した学校を作るべき。

・行事の充実と自由な雰囲気

学校行事を充実させ、自由な感じを増やすなど、生徒に寄り添った活動を行うべき。

・その他

部活を増やし、その施設も増やすこと。入試をどうにかするべき。

○県内私立高校

・情報発信の充実

SNSを活用し、学校の魅力や伝統を発信するとともに、県内の高校同士での交流も盛んにしていくことができないか。中学生にもわかるような情報発信をすべき。

・学校の特色化

各校の魅力をアピールするために合同で活動する行事を作る、県内唯一のものを作るなど、学校独自の文化や教育を強化すべき。

・個性を尊重した入試

推薦入試があっても良いと思う。入試方法が変わって県外に行く生徒が増えているため、学力だけでなくそれぞれの個性を認めるべき。

○県内公立高校

・情報発信の強化

SNSやインターネットを利用して学校の魅力を積極的に発信すべき。生徒主体での発信が必要。各高校の良さや特色を分かりやすくアピールし、SNSやホームページで日常生活の様子や活動内容を更新すべき。

・学校の特色化・多様化

その学校でしかできない特別なことを作り出し、県内外にアピールすべき。普通科以外の多様なコースや学科を充実させるべき。いくつかの高校をまとめた新しい学校を作り、規模を拡大することで部活や学科を充実させるべき。

・施設・設備の充実

校舎のリフォームや設備（テニスコートのオムニコート化や体育館の空調など）を新しくし、快適に過ごせる環境を整えるべき。エアコン、ストーブなどの設備を心置きなく使えるようにしてほしい。清潔感のある施設が必要。

・入試制度の改善

特色選抜の時期を早めることや、前期選抜を復活させる等により、早く進路を決められるようにすべき。学習に力を入れた人が受けられる推薦入試も設けるべきではないか。

・自由度の向上

校則（髪型、制服）を緩くし、自由な雰囲気を増やすべき。教員や生徒が規則から縛られすぎるのは良くない。行事を増やし、自由度を高めることで、学校生活を活性化させる。

・経済的負担の軽減

学生の通学費用の一部を負担する、学費を無料にする、学食・給食制度を導入するなど、経済的負担の軽減が必要。

・進路指導・キャリア教育の充実

進学実績の維持向上、就職選択を広げるカリキュラムの充実が必要。高いレベルの進路実現を目指す生徒のために学力レベルを保てるようにすべき。地元企業とのコラボ授業、地域イベントへの参加、国際的な視野で見ることができる活動（交換留学、姉妹校など）を増やし、秋田にいたいと思える若者を増やすべき。

・部活動の強化と多様性の確保

全国レベルの部活動を作り、大会実績を出すことが最も重要ではないか。部活動の指導体制・環境（指導者の質、外部コーチの導入など）を充実させてほしい。スポーツが苦手な人でも気軽にできる場を創ることや、文化部や同好会でも他校との交流機会を増やすなどにより、部活動の多様性を広げるべき。

＜保護者編＞

○県外高校（公立・私立）

・指導体制の充実

全国レベルの実績をもつ指導者や専門家の確保をはじめとする専門的指導体制の改善を図るべき。外部コーチや優秀な指導者の招聘・育成を強化すべき。

・施設・設備等の充実

練習環境（時間・場所・設備）の充実と整備が必要。文武両道を実現するため、少人数で生活ができる寮があれば県内進学も視野にあった。交通インフラの整備も必要。

・経済的負担の軽減

学費、部費、遠征費等を無償とするなど、経済的支援が必要。特待生制度があれば県内進学を選択した可能性があった。

・競技の多様化

女子硬式野球やゴルフ、ダンス部など、部活動の選択肢を増やすべき。

・学校の特色化と情報発信の強化

公立高校の特色化を進め、特定の分野に特化することが必要ではないか。学校の特色や強みを積極的に発信して選ばれる学校づくりを進める必要がある。時代の変化に対応し、校則や指導方針等の柔軟化を図ることが必要。

・勧誘活動の早期化・強化

勧誘時期が他県より遅いことについては、改善が必要。

・入試制度の改善

特色選抜の制度が分かりにくい。選抜の公平性への不安を解消すべき。

・私学の充実・誘致

私立高校のスポーツ面での充実を強く希望する。私学の誘致やスポーツ・特進コースの充実を図るべき。

○県内高校（私立）

・指導体制の充実

生徒の自主性を尊重した部活動、スポーツ科学や教育的視点に基づく指導体制の整備、外部研修や専門家との連携が必要。魅力あるコーチ陣など、専門的な知識がある外部指導者を増やすべき。個々の能力や熱意を伸ばしてくれる指導者の存在が必要。

・魅力ある練習環境の整備

県外私立のように、施設・設備や指導者の充実はもちろんあるが、学業への配慮なども含めた相当の配慮が必要ではないか。

・学校の特色化と情報発信の強化

各校が独自のカラー（専門性の高い授業、語学、部活動等）をもち、母校を誇りに思える個性を創出すべき。オープンスクールの積極的な実施や内容の充実が必要。部活動に打ち込める環境づくりが必要。勉強を頑張るために県外に行くという生徒も増える可能性があり、個性を認めるべきである。

・入試制度の改善

一般選抜と同日の特色選抜は、県内受験のチャンスが実質1回しかない。以前のように別日で実施すべき。また、特色選抜の合格基準の明確化と、部活動の活躍を生かせるスポーツ推薦枠を明確化すべき。運動部で活躍したい生徒は早い時期に入試を行い、卒業前から高校の練習に参加できるようにすべき。

・その他

生徒一人ひとりの良いところを見つけ伸ばし、居場所がある学校が必要。スポーツ優先なところがあり、文化部が優遇されにくい。県立・私立問わず、教員の働き方改革を進め、教員不足と教育の充実を図るべき。部活動の地域移行についても更なる推進が必要。

○県内高校（公立）

・指導体制の充実

全国レベルの実績と強さ、専門的で魅力ある指導者・コーチの確保と育成が必要。指導者の資質向上（人格否定、ハラスメント、時代錯誤な指導の排除）と、顧問の異動問題の解決（実績ある指導者を異動させず継続的に指導ができるようにすることや、専門人

材を複数配置すること等）が求められる。専門的な指導力のある顧問や外部コーチの確保・育成が重要である。体罰・暴言をなくすべき。

・施設・設備の環境整備

校舎や設備の老朽化対策と改修、冷暖房の完備など、清潔で快適な生活環境を整備すべきである。冬季屋内練習場やトレーニングルームの設置、公共施設の利用における学校間の平等な機会確保が必要である。また、寮や寄宿舎の整備が、遠方から通学している保護者の負担軽減につながる。

・経済的支援の拡充と学校生活支援

遠征費、部費、合宿費、道具代の補助などの金銭的支援の充実を図り、保護者の経済的負担軽減が必要。スクールバスの運行や交通費の補助などにより、通学の利便性と保護者の送迎にかかる負担軽減を図るべきである。特待生制度の創設など、私学並みの支援ができないか。給食や学食の導入、売店の充実も必要。

・学校の特色化と情報発信の強化

特定の分野に特化した学科やコースを設置して、学校の強みを明確にするとともに、多様な学びを充実させるべき。地元企業との連携した授業や地域貢献活動、外部講師による難関大対策など、秋田で学ぶ意義を感じられる教育内容を充実させるべきである。また、中学生や保護者、地域住民に学校の魅力が伝わるよう、積極的な情報発信が必要である。

・進路指導とキャリア教育の充実

1年生からの進路指導の充実を図るべき。また、難関大学進学者への学習支援、学力レベルに応じた授業、指定校推薦の拡充が必要ではないか。学習と部活動の両立サポートを充実させてほしい。高校卒業後の進路（進学・就職）が充実しているべき。

・入試制度の早期化と選抜方法の改善

特色選抜を一般入試と同日ではなく、以前のように早期に実施すべき。スポーツ推薦制度や、学力だけでなく一芸を正当に評価する仕組みを作り、早期に優秀な人材を確保すべきである。特色選抜を廃止し、以前の前期選抜に戻すことで、活動に特化した生徒の練習期間を確保し、県外進学を防ぐべきではないか。

・部活動の在り方について

部員数減少で部活動の存続が難しいため、クラブチームでの出場許可や合同チームでの活動を認めるなど柔軟な対応が必要である。文化部も含め、部活動全般の充実が求められる。また、部活動は課外活動であり、クラブチームなど外部に委託すべきとの意見もある。

・その他

生徒が楽しく学校生活を送れるよう、生徒の意見を聞き、反映できる仕組みが必要。生徒の主体性や意見を尊重し、個性や多様な進路を認め、自己有用感が感じられる学校生活を送れるようにすべき。部活動での県外進学を、高校入試の問題にする議論について、高校生がどのように見ているのかを冷静に考えるべきではないか。